

編集後記

2024年1月1日16時10分に能登半島地震が発生しました。石川県未曾有の自然災害で被害甚大です。2011年6月、国連食糧農業機関（FAO）により日本で初めて世界農業遺産に認定された能登の里山里海。美しい景観とそこに暮らす人々の素朴な人情は「能登はやさしや土までも」と慕われました。その能登半島を巨大地震は突如、元旦に故郷で家族と団欒する場へ容赦なく襲いました。本学は能登出身者も多く、自宅が半壊し避難所から大学へと期末試験のため戻った学生もいました。また新入生研修やフィールド活動を始め、平素より能登の皆様には大変お世話になっており、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

物理学者の寺田寅彦が講演会で発したと伝わる「天災は忘れた頃に来る」は、防災に関する有名な警句です。しかし、平成の神戸淡路や東日本の大震災を経験し地震への備えを忘れずとも、「天災は時を選ばず来る」を思い知らされました。寺田は随筆「天災と国防」(1948年 岩波文庫)で「文明が進むほど天災による損害の程度も累進する傾向があるという事実を十分に自覚して、そして平生からそれに対する防御策を講じなければならないはずであるのに、それがいっこうにできていないのはどういうわけであるか。」と人間心理の特性と陥穽を洞察し、油断することなく、平穏時から稀な災害時への備えをしておくべきことを強調しています。

寺田の戒めを私は、人生初の震度5強体験で書棚から文庫本が飛び出し、頭部に当たって痛感しました。普段なら「本は宝物」ですが、強震時には「本は凶器」ともなり得るのです。地球の重力に逆らわず、大きく重い本は下段、小さく軽い本は上段に整理することにします。

心温まるのは、かような逆境にあっても変わらぬ能登の皆様の「能登はやさしや土までも」のお姿です。日本海に面した気候と風土、歴史と伝統に育まれた地域コミュニティの絆です。勇気づけられるのは、ボランティアの皆様が献身的に支援活動されるお姿です。たとえ自分が苦しくとも、他者への思い遣りを忘れぬ日本人の姿です。誠に有り難いことだと思います。

今号は、こども学科5件、スポーツ学科1件、短期大学部2件、合計8件の投稿がありました。どうぞ高覧ご批評くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2024年3月吉日

編集委員長

馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は、基本的に人間科学部に帰属します》
「金沢星稜大学学会 会則と規程 等」については、下記のWEBサイトをご覧ください。

<https://www.seiryu-u.ac.jp/u/research/gakkai/index.html>